

3) 腰椎麻酔中の体温変化に対するアミノ酸輸液の効果

京都府立医科大学 麻酔学教室 溝部 俊樹

(目的) 全身麻酔中の体温低下は、アミノ酸輸液による基礎代謝量の増加により防止 できることが既に報告されている。また腰椎麻酔中も全身麻酔中と同様に中枢温が低下することが知られている。そこで、腰椎麻酔中の体温低下に及ぼすアミノ酸輸液の効果を検討した。

(方法) 腰椎麻酔での手術予定患者をアミノ酸輸液投与群 (テルアミノを麻酔導入 2 時間前より入室まで 2ml/kg/h 投与) と対照群 (生理食塩水を同量投与) に分けた。中枢温 (鼓膜温)、中枢-末梢温度較差、酸素消費量を輸液投与前及び麻酔導入より 90 分間測定した。

(結果) 両群において麻酔範囲、血圧、心拍数、及び術中輸液量の差は認めなかった。中枢温は、アミノ酸輸液投与群において対照群と比し、麻酔導入 30 分後より有意に高くなりこれは 90 分後まで認められた。酸素消費量は、アミノ酸輸液投与群において、麻酔導入時より有意に高くこれは 90 分後まで認められた。

(結論) 交感神経活動が抑制されている腰椎麻酔中においても、アミノ酸輸液により 基礎代謝量の増加が起こり体温低下が抑制されることが示唆された。